令和７年度

アクションプラン１	
実施項目	生徒指導
重点課題	思いやりのある子供の育成
現状	多くの子供たちは、登校時の挨拶を日常的に行うようになってきている。一方で、進んで挨拶することが苦手な子供や、馴れ合いの関係で投げやりな言い方をする子供もいる。挨拶運動を学年毎に工夫して行ったり、思いやりのある言葉かけを推進する取組を行ったりすることを通して、相手を思いやる心を育てていく必要がある。
目標	「自分が決めた目当てでの挨拶や相手を思いやる言動をしている」と評価する児童が、80％以上になる。
方策１	道徳科や学級活動等で、「挨拶」や「相手を思いやる言葉遣い」について各学年で話し合い、挨拶運動への意欲を高める。また、全児童が学年毎に挨拶運動を行うことで、よりよい挨拶の習慣化を図る。
方策２	学期に１回、代表委員会が企画する「ほかほか週間」を全校で実施し、うれしかった言動等を互いに紹介し合ったり、掲示したりすることで、思いやりのある言葉を用いることのよさを感じ取ることができるようにする。
学校関係者評価	運営協議会委員　保護者
公開方法	学校だより・学年だより・保護者会・ホームページ

アクションプラン２	
実施項目	学習指導
重点課題	対話力の育成
現状	昨年度は、話型を掲示し、教師から意識的に声かけをすることで友達の意見につなげて話したり順序を意識して説明したりする場面が増えた。また、「聞き名人ポイント」を活用して、話す人の方を向いたりうなずいたりして聞く子供が増えた。しかし、教師からの手立てなしで、子供たちが自ら話型を活用した効果的な話合いをすることは難しかった。
目標	「授業中、伝える内容や順序等を考えて、相手に分かりやすく話している」「授業中、相手の伝えたいことを考えながら聞いている」と評価する児童がそれぞれ 90％以上になる。
方策１	湖南タイム（or 朝活動）に、話型活用に特化した「対話タイム」を設けて、話型を定着させる。【対話に必要な土台づくり】
方策２	話合いの場を意図的に設定したり、子供たちが話し合う必要性を感じるように課題を工夫したりして、対話が生まれる授業づくりを行う。【対話が生まれる場の設定】
学校関係者評価	運営協議会委員　保護者
公開方法	学校だより・学年だより・保護者会・ホームページ